



あけまして
おめでと
うございます
令和壬寅
元旦

明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのことと存じます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

コロナ感染は全国的に急速に減少し、宮城県の感染も極端に少なくなりました。

しかし、冬の寒さにあっていつ感染が再拡大するか予断を許さない状況にありますので、皆様におかれましては十分お気をつけてお過ごしくださいようお願い致します。

早いもので一万人市民委員会宮城県民の会は、今年創立25周年を迎えます。

これもひとえに会員の皆様を始め、関係者の皆様の厚いご支援の賜物と深く感謝いたしております。

この25年間、介護の社会化は進化し、一万人市民委員会の評価・調査活動も高齢者ばかりでなく、障がい者や子ども分野へと対象が拡大するとともに、評価・調査活動にも大きな変化がありました。

一つ目は、平成27年度に福祉サービス第三者評価の中で保育所への受審料について、一部補助が創設されたことから保育園からの評価依頼が徐々に増えつつあります。

二つ目は令和元年度から「みやぎ介護人材を育む、取組宣言認証制度第2段階確認調査」が始まったことです。

これは介護の人手不足と将来を、見据えた取組として宮城県が推進しているものです。

三つ目は令和3年度の制度改正により「地域密着型サービス外部評価」が外部評

創立二十五周年を迎えて

これまでの活動と
これからの活動を考える



代表理事

佐藤 年夫

価又は運営推進会議の評価のいずれかを選択して、受審できるようになったことです。

このため、受審を継続してもらうよう働きかけを強めています。そのほか、介護サービス情報公表制度においても、宮城県では、介護事業所の職場環境が見える化するため職員の就業状況や給与体系等、新たに独自項目(7項目)を追加して調査をしております。

このように調査活動も時代の流れや状況の変化に対応していくことが求められますが、一万人市民委員会のモットーである利用者目線、市民目線を見失わず、今後とも調査活動に精進していきたいと存じます。

また、コロナ禍にあって昨年度の調査活動は、感染予防のため訪問調査だけではなく、リモート調査や全書類郵送調査も導入されました。これには調査員から①相手が管理者に限られ、職員からの聴き取りが出来ない②施設内の見学ができず、現状把握が難しい③調査時間が短縮され、時間が足りない④書類の不備や確認のための連絡に時間を要し、調査が非効率になるなどのデメリットが出された一方、「訪問するための移動時間を要しない」、「ペーパーレス化に沿った調査になる」など、メリットも指摘されています。今後ともこのような調査方法は継続することが予想されますので、これらの情報を蓄積し、適切な対応を考えていくことにしています。

最後に、コロナ禍が完全に終息し、元の日常生活を取り戻すようお願いして年頭のご挨拶いたします。



〜〜十七年の活動を振り返って〜〜

副代表理事 早坂 幸代

一万人市民宮城創始者である大川代表はじめ、著名な学識経験者の皆様のご協力のもと、「介護の社会化を進める一万人市民委員会」が発足してから今年で25周年となります。これもひとえに、介護事業所はじめ多くの皆様のご愛顧の賜物と感謝申し上げます。

私は17年前に声をかけて頂き、大先輩の皆様によるご指導の下、地域密着型認知症対応型共同生活介護サービスの外部評価調査員として微力ですが関わってきました。当時を思い出すと、地域に施設が来ることに住民の理解がなく、事業所立ち上げ当時の苦労話や評価項目の内容が理解しにくい等もありました。3年ごとに見直される介護保険法制度の改正や県のガイドラインにそった質問を通し、日常のケアの様子を管理者や職員と話し合い、気づきを見

出し、改善につながるべく取り組むことを目的としてきました。多くの事業所では大変な業務をこなしながら、研修等を積み重ね、入居者の思いに歩み寄りより良いケアに向けた取り組みをされています。

今年度から、外部評価が事業所で開催する運営推進会議での外部評価と現状通り調査機関に依頼する外部評価との選択制になりましたが、今年は例年の8割弱の事業所からの依頼があり、リモートや感染対策を行いながら訪問調査を実施し、ご協力を頂いています。

コロナ禍感染による入居者、職員の行動の制限があり、ご苦労も多い中、ご尽力されている事業所の皆様方に衷心より感謝申し上げます。

今年度も前年同様宜しくお願い致します。

新調査員を迎えて

活動体験のなかから ①会員になったきっかけ、②介護・福祉について思うこと、③訪問調査をして感じたこと、④趣味・特技、⑤今後の目標 についてコメントを寄せていただきました。

活動の更なる充実に向けて



介護現場の処遇改善を願って

会員 塩田美千代

- ①一万人市民委員会と同じビルの地域包括支援センターで働いていたことが縁で、事務所の皆様からお誘いを受けたのがきっかけです。
- ②仕事が大変な割には、処遇が悪く、辞めていく人が多いです。働く環境や処遇を改善し、若い人たちが働きたくなる魅力的な分野になるように願っています。
- ③本日、初調査が終わりました。とても緊張し、ぐったりしています。
- ⑤コロナ太りで体重が5kg増えました。今年こそ積極的に体を動かし、すっきりした体を目指します。



良き応援者を目指して

会員 加藤裕子

- ①終の住処としてどんな施設があるか知りたいと思っていたところ知人より紹介されました。
- ②介護保険制度の複雑さと理想的な介護理念等に驚いています。現役時代、1982年老人保健法施行に伴い保健所に老人精神保健相談を開設したところ認知症の諸問題が浮上、対応策の一つとしてデイケア、家族会を開催。家族と本人にとっても喜ばれ元気になっていく姿がありました。利用できる制度もなく周囲の理解も得られようもないそんな時代でした。
- ③ひとり一人に寄り添うことに日々努力している職員に敬意を抱きます。介護にかかわる人も共に笑顔で過ごせる職場環境も大切と感じます。
- ④絵、ハーモニカ、自然散策等
- ⑤良き応援者として役に立つ調査員を目指したいと思います。

◆「地域支え合い推進会議」だより

「老後の住まいセミナー」を開催しました！

国の新型コロナ緊急事態宣言で延期していた今年度「地域支え合い推進」活動計画の「老後の住まいセミナー」を11月5日仙台市生涯学習支援センターで、マスク、消毒、換気等感染予防対策を講じて開催しました。

講師を介護施設紹介サポートセンターマネジャー白畑大吾氏に依頼し、一人暮らしなど、自宅での生活

を続けていくことが難しくなってきた際の高齢者介護施設のセミナーで、参加者は18名、榴岡地域包括支援センターからも2名参加頂きました。介護付き有料老人ホーム、住宅型有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅、グループホーム、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設等各施設の特徴、メリットとデメリット、月額費用等や本人、家族のホンネと要望をお聞きしながらの紹介手順、施設選択事例の紹介でした。



三十六年に一度の運氣は・・・

会員 嶺岸 とも子

令和四年は五黄の寅年です。

私は昭和25年8月生まれの72歳になります。

今年は36年に一度の金運奇跡の年と言われているのでとても楽しみにしています。

母が生前リハビリのため文化刺繍の虎を作成していたので、今年は母が見守ってくれるよう玄関に飾りたいと思います。コロナ禍が少し落ち着いてきているようなので、趣味の人形劇が再開できるよう頑張りたいと思っています。

年を重ねてきて忘れることが多くなってきたので、ボケ防止のために麻雀をもっと上手にできるように楽しみながら続けていきたいと思っています。並べることが何とか出来るようになりましたが、点数の数え方を覚えることが今年の目標です。

みやぎ介護人材を育む取り組みに力を注いでいきたいと考えています。これから私たちがお世話になる介護施設がよりよい制度に守られて「生活の場」として生活できるように見守りをしていきたいと思っています。



〜〜歳神様に感謝〜〜

会員 我妻 清子

2022年は自粛生活から解放され、本来の生活を送れますよう切に願います。

さて、今年の干支は寅。私の生まれ干支です。この年になるとめでたくもあり、めでたくもなしという感想を持った年女となりました。

しかし、これまでを振り返ってみると、この年齢まで通院加療が必要な病やけがに見舞われることもなく健康でいられ、興味を持ったものに挑戦してこれたので、これは何かのご加護のおかげ、大いにめでたいこと、ありがたいことと、12年巡りでお出でになる年神様に感謝しています。

時には体力・気力・記憶力・言葉が出てこない等で加齢の影響が迫ってきていることを感じ、ネガティブになることも。しかしながら、天性のお気楽性格で一刻のことで済み、すぐに見られるようです。

これからも今手掛けているボランティアや趣味を大切に、充実した日々を過ごすよう心掛け、12年後の年神様を元気で迎えたいものです。

【五黄の寅とは?】

占星術の九星の五黄土星（9年周期）と干支の十二支の寅（12年周期）の最小公倍数である36年に1度巡ってきます。五黄土星生まれの人は「周囲を圧倒するほどのパワーの持ち主で運氣が強大」と言われています。寅年生まれの人は「強い正義感と信念の持ち主で困難を克服する強い意志と行動力がある」と言われています。そのため、五黄土星と寅年が合わさった「五黄の寅」に生まれた人は最強の運勢を持っていると考えられています。



第2の青春を謳歌

会員 柏倉 勝

こんにちは、柏倉です。シルバーセンターのサークル・ピンピンコロリで仲野さんに声を掛けられ軽い気持ちで一万人に入会をして、もう3年(?)が経った。最初は両親が施設に入るときに参考にしたホームページに少しでも正確な情報を提供しようと思っていたが、かなりの計算違いであった。できの悪い頭を絞って苦手な文章を作らなければいけない。文章を作ることなど今までの人生で避けてきたことだ。いろいろな方に教えてもらいながら亀さんペースでゆっくり進んでいる。

第二の人生を生きて来て、いろいろなことを体験した。両親の死、そして生まれ変わりの孫の誕生である。大変孫は可愛いもので、気持ちが癒された。第一段階の目標は、孫が小学校入学まで頑張ること。第二の青春を楽しく過ごすためにいろんなサークルに加入した。明青大、ガイド、文化財サポート、マジック、カルチャースクールなどなど十個ぐらいになっていた。予定がダブルブッキングすることも出てきた。そろそろ大幅に絞って本当に好きなことに集中するつもりだ。

いつの間にか今年は、六回目の干支の寅年である。



「ありのまま」少し前向きに

会員 佐藤 静江

還暦を迎えた頃人生は、これから・これからの一心でした。その矢先に大震災、大津波の直撃を受けて日常が激変でした。仙台に転居して心穏やかに過せることを最優先に過ごして来ました。孫育てもホッと一息すると古希を迎え、何と今年は寅年スタートです。今は、市民センターのボランティア活動に参加して仲間に出会えたことが、元気の源になっています。その縁で一万人市民委員会を紹介されて、本当に生き生きと活動している方には年齢のないことを実感しました。魅力的な方々に出会えたことで、体力低下の現実を心得ながら、前向きに思っているところです。



一万人市民委員会との出会い
 会員 川村 勉

◇定年後、専門学校に高齢入学
 海上自衛隊を経て第二の職場
 の建設業安全担当を定年退職と
 なった平成十四年頃、母の介護
 に役立つかも、と福祉の専門学
 校に入りました。高校卒業した
 ばかりの初々しい女の子に交じ
 って異例の高齢入学となりました。

この専門学校にもう一人、
 高齢入学してきた人がいるので
 す。現在の一万人市民委員会代
 表佐藤年夫さんで、ここでは私
 の方が2、3年先輩になるので
 す！

教頭クラスの教師が「認知症
 の人と家族の会」の宮城県支部
 代表であったので、卒業して「家
 族の会」に入りました。佐藤年
 夫さんも「家族の会」会員とな
 り、重要な役割に就いていきま
 した（後に、宮城県支部代表。
 現在顧問）。

◇「一万人市民委員会との出会い
 「家族の会」の佐藤さんから

平成二十五年のある日「黙って俺
 の言うところに行くってみてく
 れ」と指示を受けました。何のた
 めに行くのかも訊けないまま出向
 いていくと、待ち構えていた方に
 矢継ぎ早に経歴等質問を受けタジ
 ロギました。そこは一万人市民委
 員会の事務所で、面談だったよう
 です。佐藤さんがその会員であ
 ることも後で知りました。

こうして一万人市民委員会会員
 になってもう八、九年にもなりま
 す。マンネリに陥りやすい私です
 が、訪問調査や評価委員会等を通
 して会員のスゴサに気付かされま
 す。そしてにこやかな姿の中にお
 そろしいチカラを秘めている方々
 なのだ、との思いを新たにしてお
 ります。

これから同行して頂く調査員の方
 にも訪問する施設にも、なるべく
 迷惑掛けないようにしたいと思っ
 ております。今後ともよろしくお
 願い致します。

◆◆なんでも相談会のご案内◆◆

法律、成年後見関係の分野に限らず、会員
 やその家族、知人の方がお持ちの生活全般に
 関わる「困りごと」「悩みごと」などなんでも
 相談会です。
 令和4年1月から4月までの開催日程は下記
 のとおりです。

☆開催日程

- ・1月18日(火) 相談役 安田廣治司法書士
- ・2月 9日(水) 相談役 武田貴志弁護士
- ・3月24日(木) 相談役 安田廣治司法書士
- ・4月14日(木) 相談役 武田貴志弁護士

【編集後記】

自分でも何をやってるんだろうと思いながら、
 思いついた事をスマホに向かって喋っている。
 思い付きが途絶えたところで喋りを終えて「完了」
 のタップをすると、クラウド上に喋ったことが文
 字情報となって格納されている。
 続けて、パソコンにクラウド上から先程スマホに
 喋った文字情報を取り込んだところ、私のキツイ
 津軽訛りも問題なく記録されていたので、句読点、
 改行、誤字脱字の編集・校正を行ったのが「この
 編集後記」です。
 “スマホに喋って、パソコンに書き出す”これが
 今どきのスマホとパソコンの連携術なのだ！
 「編集後記に変えて」 かねひら



特定非営利活動法人
 介護の社会化を進める
 一万人市民委員会宮城県民の会

編集委員 兼平 幸雄 工藤 俊廣 曾根 務
 出口 香 張間 佳代